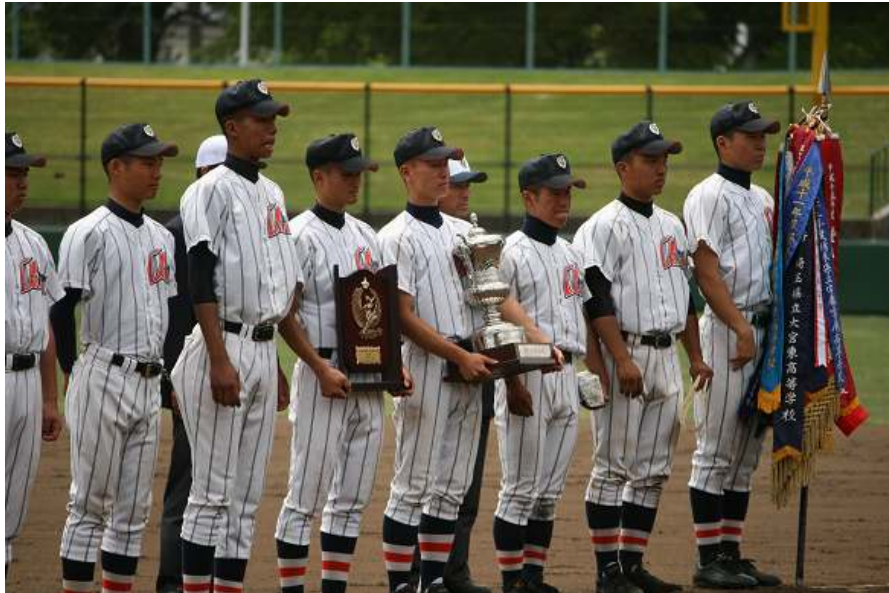


5/19
号外

野球部 第62回春季関東地区大会2連覇

3年連続13回目出場、2年連続3回目優勝

決勝は習志野高校(千葉1位)を4-0、萩原一南の完封リレー



結果報告と御礼

埼玉県準優勝、2位代表として出場した関東大会。2ヵ月後に迫った夏の大会に備え、主力選手を温存するチームも多い中、本校野球部は、エース格の3投手を投入し埼玉県代表として全力で戦った。関東大会や甲子園に出場するだけのチームではなく、「全国の頂点」を目指すチーム作りの通過点として、収穫の多い、そして選手たちに大きな自信となった大会であった。

現地レポートは、新聞記事では伝えられない生情報、スタンドの選手を中心に取り上げてきた。「勝ちたい」「甲子園に行きたい」「自分たちを心から応援してほしい」という全部員の思いを、紙面を通じ、球場で観戦できなかった方々にも是非伝えたい。

日に日に増える茨城県の浦学ファンに聞いてみた、「試合前には、応援宜しくお願いします。試合後には、明日も勝ちに行くので、是非応援をお願いします。ありがとうございました。」とスタンドの選手達が観客の皆様の方に向かって礼を正す。スタンドの観客は何とも気持ちが良いと言う。「茨城県には、こんなチームはないよ。浦学はずごいな。」

地区予選結果

1回戦 浦学 8-1 浦和市長 (7c)
代表決 浦学 7-1 大宮東

県大会結果

2回戦 浦学 5-0 春日部東
3回戦 浦学 7-0 浦和北 (7c)
準々決 浦学 4-1 上尾
準決勝 浦学 5-4 坂戸西 (延長13)
決勝 浦学 0-2 花咲徳栄

関東大会

1回戦 浦学 13-4 水戸桜ノ牧 (7c)
2回戦 浦学 3-2 桐光学園
準々決 浦学 11-4 日川 (7c)
準決勝 浦学 7-6 前橋商業
決勝 浦学 4-0 習志野



優勝旗を授与される
(星主将 3年)

決勝戦、先発は準々決勝に次ぐ左腕萩原大投手(3年)。習志野高は、選抜準優勝の日大三高を破り波にのっている。公立の伝統校だけに野球好きなオールドファンも多く、浦学投手が制球に苦しむと昔ながらのヤジも飛ぶ。

3回敵失で1点を奪うが、1-0のまま5回表習志野攻撃から二番手南投手(3年)がリリース。交替直後、DB・四球と制球に苦しみ逆転のチャンスを与えるが「全員でやろうぜ!」と右方向の野手から大きな激が飛ぶ。吹っ切れたのか、後続を三者連続三振。終わってみれば危なげなく両投手で4安打に抑え、巧打の習志野打線を相手に勝利した。打っては5回裏、三番星がダメ押しの2点タイムリー。連投の投手陣を援護する。抑えるべき投手陣、打つべき主力が役目を果たすと同時に、一人ひとりが技術面以外の役割を果たしたことが「勝利、優勝」につながったことに違いない。

明日から夏への出直しでない。既に甲子園予選を勝ち進んでいる勢いを感じる関東大会であった。



生徒達は立派でした。応援団長をはじめ全員から自然に出てくる感謝の気持ち。

こんな生徒達だからこそ「甲子園でも戦わせてやりたい。」そう思わずにはいられない。

関東大会も、県大会に引き続き、県民の皆様・取引先・卒業生・保護者の方々多くの「浦学ふぁみり〜」に支えられご声援をいただきました。ご声援本当にありがとうございました。
(編集室)

